

木区公民館だより 宝地公民館だより

集っていただけ
公民館を目指して

公民館長 吉田 和行

今年四月宝木地区公民館長の任を仰せつかり半年が経過しました。新米で戸惑ってばかりでご迷惑おかけしています。が、宝木地区の皆様(「集つど」)に「集つど」を目標していただける地区公民館を目指してまいりました。公民館の活動については、四十数年前、二十代の頃熱中した青年団活動の体験によりある程度は理解していたつもりですが、時の経過とともに大きく変わっていました。

公民館活動は、生涯学習・社会学習に重きが置かれていましたが、今はこれに加え、協働のまちづくり、日々の生活の中に潜んでいる人権問題の啓発、また、地区行政が拡大した都市

部に合併されたことにより、少なからず取り残されがちな地域特有の課題など地区の皆様、団体様と一緒に考えるなど、多様になっていくことを実感する毎日です。

四月、平成二十五年度の活動開始に当たり、各部落の区長様をはじめとする運営委員会、また各専門部で事業計画をご協議ご承認頂き、年度が始まりました。この半年様々な公民館活動を大過なく実行できましたのは、多くの地区の皆様、地区団体様のご厚情と、連日の心温まるご支援の賜物と心より御礼申し上げます。

海岸での砂像づくりと地引網の宝木っ子まつり、公民館に宿泊しながらアウトドア活動を取り入れたわくわく泊り隊、タイムカプセルを開けるなど旧交を温める二十一歳目での

宝木小学校卒業生同窓会、滝を中心とした文化教室、鷲峰登山陶芸教室、園芸教室など多くの【集い】の実現も、皆様の力強い、地域づくりへの熱い心の表われと敬意をもって御礼申し上げます。

十月より下期に入ります。各部会の皆様にはすでに下期事業のご協議ご承認、そして実行委員会の立ち上げなど推進して頂いています。十月の宝木地区文化祭、また地区内各部落では人権啓発事業としての小地域懇談会等、多くが予定されています。引き続き地域の皆様のご協力賜りますようお願い致します。

近年、都市化・過疎化や家族形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化により、人間関係の希薄化が課題となっています。この機会に宝木地区平成二十五年三月末時点での少年人口比率、老年人口比率を計算してみました。高齢化が進み六十五歳以上が五十%を超える、いわゆる限界集落は宝木地区

には有りませんが、宝木地区では少年人口が極端に少なく、厳しい状況です。結果十四歳までの少年人口は少子化が叫ばれる全国、また鳥取県では約十三%ですが、なんと宝木地区では八・六%で大変厳しい現実でした。

こんな現実も宝木地区の皆様と共有しながら、私たちが何ができるか、何をすべきか一緒に悩み、考えて行きたいと思えます。

地区の皆様とともに元気はつらつ職員一同活動してまいりますので今後ともご理解ご支援宜しくお願い申し上げます。



宝木っ子まつりを終えて

青少年育成部長 澤本 英人

「何してる?」「いい、どうしよう。」「崩れちゃう。」「子どもたちの楽しそうな声をたくさん聞くことができました。」

平成二十五年度宝木っ子まつりが、七月十四日に船磯海岸で実施されました。熱中症なども心配されましたが、前日までの猛暑も一段落し、雲間もある天気です予定通り行うことができました。

まず、砂像作りでは、チームに分かれて作りたいキャラクターを決め、どのような形にするかを決めました。慎重に少しずつ削るチーム、大胆に削り落とすチーム、それぞれのチームが、話し合い、協力をしながら仕上げていきま



した。サンドパルさんの指導のもと、どのチームとも満足のいく仕上がりととなりました。

砂像が完成したチームから、宝探しをして、地引網の魚をもらう順番を決めました。網引きでは、

ゆっくり、みんなで息を合わせて網を引き、網の中身が見えた時には、大きな歓声があがります。鯛やスズキ、サヨリなど大物がたくさん獲れました。子どもたちの、



いい笑顔がたくさん見えた一日でした。今年も、コミネット宝木、ふれまち、小学校、保育園、青少年育成部

等、たいへん多くの方々のご協力で盛大に実施することが出来ました。本当に有難うございました。

健康講演会

『糖尿病の予防について』

に参加して

岩田 玲子

八月二十五日に開催された、地元出身で現在浜村にて開業医をされている米田一彦先生

による「糖尿病の予防について」の講演を聞きました。

まず、先生の「五人に一人は糖尿病の予備軍です」という言葉に驚きました。現代の私たちの食生活は豊かになり、食事と運動と遺伝が要因である糖尿



病にかかりやすい生活をしているとのことです。

美味しいものを食べ、運動不足で

あり、飲酒、ストレスの溜まる社会など、沢山のことを背負って現代社会を生きているからだと思います。糖尿病の予防は、
・腹八分目の食事と脂肪を控える。

・多様な食品をバランスよく食べる。

・一日十分間のウォーキング。そして、自分の適正体重を知ることが大切。

私の生活に置き換えてみると、一人での食事、また田舎に

は店がないので残り物を冷蔵庫の中と相談している毎日の私にとって、バランスの良い食事は難しいこと。

ウォーキングについては、移動の方法がないので仕方なく歩いていましたが、歩く事が糖尿病予防の第一だと学習して、更に頑張ろうと思えました。糖尿病は恐ろしく、早期発見が何よりも大切だと知らされました。

今回の講演会で、毎日の食事と生活を振り返る機会を与えて下さったことに感謝しております。

『陶芸教室』

吉田 美香

陶芸について何の知識もないまま、ただ「陶芸やってみたいな」という気持ちで始めました。

まずは、土をねることからでした。やり方を教わったものの慣れない手つきで空気を抜き



陶芸は、ろくろを使うものもあれば土を
 工作の様に
 扱うものも
 あり、技法は
 いろいろあ
 るというこ
 とがわかり
 ました。

ながら軟らかくなり、円柱状に
 まとめていよいよ成形です。
 初めて高台のあるお茶碗に
 挑戦しました。どんなことにな
 るか不安でいっぱいでしたが、
 宮本先生が丁寧に指導をして
 下さったので、不慣れな手つき
 でも、少しずつ形を整え、お茶
 碗の形が出来上がっていきま
 した。ろくろを回して形を作っ
 ていくのが楽しくてお茶碗の
 はずが、出来上がってみた
 ら・・・どんぶりに変身してし
 まいました。

成形・削り・釉薬ゆうやくという段階
 を経て作品が出来上がります。
 少しづつ出来上がりが悪く
 ても、苦勞して作ったものは愛
 着が湧いて嬉しくなりました。
 陶芸は、ろくろを使うものも

平皿・小皿・湯呑み・古民家
 風のお香を焚く入れ物等を作
 り、数回の経験で、「ここに」「今
 度は何を作ろうかなあ〜」なん
 て思っている私がいいます。

じげ自慢

夏恒例、上光の納涼祭

上光 高浜耕之輔

上光部落で夏恒例となつて
 いる大納涼祭を、今年も盆の八
 月十三日に行いました。昨年、
 準備万端終えて開始を待つば
 かりだった夕暮れ時に、あろう
 ことか突然の夕立ちにより中
 止を余儀なくされた苦い記憶
 もまだ生々しく、すいぶんと天
 気を心配しましたが、今年は大
 旬なしの晴天で予定通り開催
 の運びとなりました。
 我が上光も最近子供の数が
 減って活気が低下している感
 は否めませんが、この日ばかり

は村の若衆(平均年齢はけっ
 う高い)が、朝からステージを
 組んだりテントを張ったり提
 灯を吊したりと忙しく立ち働
 きます。そして風にもんなで一
 杯やるというのがこれまた定
 番の楽しみ。



上光の納涼祭は毎年、生ビー
 ル・かき氷・焼きそば・焼き鳥
 などの出店
 と、子供向
 けに金魚す
 くいコーナ
 ーが人気で
 すが、今年
 は気分を変
 えて「射的

コーナー」を開設してみました。
 これがなかなか評判が良く、順
 番待ちができるほどの人気で
 したので、来年はもっとメイン
 のコーナーとして景品をグレ
 ードアップさせるなどしても
 面白いかも知れません。
 しかしなんとと言っても納涼
 祭の一番の醍醐味は、里帰りし
 てきた昔の知り合いに会える
 ことでしょう。今年も、「あれ



誰?」「○○じ
 やないの。」「
 うっそお、
 ごっつい年取
 ったな。」とい
 う囁きささやとも

に、旧交を温め合っている光景
 がそここで見られました。こ
 れがあるから毎年続いている
 んですね。

最後はこれまた恒例の大ピ
 ンゴ大会(ほとんどこれがメイ
 ン)で、始まるとともに会場は
 もう正常な精神状態からいき
 なりピンゴ特有の弱肉強食、狂
 乱忘我の無礼講大会に突入し
 てしまいます。今年も景品をど
 っさり仕入れてきたため興奮
 状態が延々長時間に及び、終わ
 った時にはみんな脱力感、虚無
 感などで疲れ果てて帰って行
 きました。ま、毎年のごとくす
 けど。

こうして今年の夏の楽しみ
 は終わってしまいました。上
 光部落の人々は来年八月十三
 日を楽しみに、一年間指折り数
 えて待ち続けるのです。



6月14日 奥沢見サロン
地区公民館より
出前陶芸教室のようす

奥沢見ふれあいサロン十三歳

奥沢見 水田 允

私たちのふれあいサロンが歩み始めたのは、平成十二年で、現在十三年目を迎えている。スタート時は女性十名、男性五名の十五名であったが、数名の脱退や新規加入を経て現在十一名で、創設時に掲げた四点の『サロンの心』を柱として様々な活動を行っている。

①心を拓き、楽しいひと時を過ごせるサロン。

【花見の会、ゲーム大会、部落のいま・むかし、男性によるおもてなし、文化祭出品作品作り等】

②仲間や自分の体や健康を考えるサロン。

【宝木地区公民館出前健康手

エック、交通安全と災害時の安全講和等】

③部落のために役立ち、活動が見えるサロン。

【公民館内修繕等、花菖蒲公園管理、神社大しめ縄奉納贈い、ホンモロコ収穫の贈い、幼児や保護者との交流等】

④ひとり一人が互いを思いやり助け合うサロン。

【日々の暮らしの中でサロン会員のみでなく、村の人誰にも挨拶などを通し思いやりと気遣いを心がけている】
月一回ではあるが、定例の会が続いているグループは奥沢見部落以外にはなく、サロン会員の熱意と絆の強さを感じている。



わくわく泊り隊

子どもたちのアンケートより

- ☆友だちと一緒に過ごせてよかった。
- ☆寝るときが楽しかった。
- ☆肝だめしが、ドキドキわくわくして楽しかった。
- ☆食事作りが自主的にできた。
- ☆(ボランティアさんへ)迷惑をかけたかもしれないけどありがとうございました。

今年も宝木地区公民館に、宝木小4～6年生の男女11名の“泊まり隊”がやってきました。たくさんの地域の方々のお世話になりながら、生活体験・自然体験・学び体験と普段できないいろいろな事に挑戦しました。ご協力いただいた地域の皆様、ありがとうございました。

地域で子育て!!



まちは学校 おとなは先生

編集後記

「暑いなあ」が挨拶になっていた酷暑も過ぎ、肌寒ささえ感じる今日この頃...皆様のご協力により、上期「公民館だより」の発行となりました。

今号は、新館長となって初めてのたよりです。新館長としての沢山の思いを寄せて頂いた結果、これまでとは少し違う構成となりました。また、公民館職員も経験という意味での若手に代わり日々悪戦苦闘の中運営を行っています。

下期も文化祭を始め様々な事業を計画しておりますので、皆様の参加お待ちしております。最後にこの度「公民館だより」を発行するにあたり、原稿を寄せて頂いたみなさま、事業に参加して下さいました。皆様ありがとうございました。